

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念(クレド)を事務所内に掲示しており、毎朝スタッフで復唱し、理念を共有しています。	代表は理念を全体会議で周知している。クレドはラミネートにされスタッフの引き継ぎ時に話し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、区費を納めています。どんど焼きやお花見などの、地区の行事に参加しています。また、地区の防災訓練やゴミステーションの清掃などの活動に協力しています。	本町地区と中島東地区と日常的な交流をしようと努力している。7月に初めてバベキュ大会を開き地域と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方から、介護や福祉に関して相談を受けています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況や行事の報告を行うと共に、出席者からの質疑応答を行っています。会議内容の議事録を作成し、サービス向上に活用しています。	開設以来21年9月30日、22年1月28日、22年5月19日の3回開催されている。本町区、民生委員、福祉推進委員、住民代表、地域包括支援センターが参加し施設の課題について話し合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長野市介護保険課や、地域包括支援センターと連絡を取り合い、協力関係を築いています。	地域包括支援センター、民生委員と連携している。住民から家族の相談を受け解決事例に繋げている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が具体的な行為を理解しており、身体拘束を行わないケアを提供しています。	身体拘束しない取組をしている。日中は施錠せずチャイムで出入りを確認している。2件の外出事例があるが地域の協力を得られるよう努力している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、知識を得る事で、防止に努めています。		

さわやか川中島(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用している利用者がおりますので、制度について学ぶ機会があります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の読み合わせや、契約書の内容を伝える事で、不明な点は、納得頂けるまで説明するようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、利用者や御家族から直接お話しを伺う他、ホーム内には相談BOXを設置しています。	相談BOXや口頭で利用者の要望や食事の希望を聞いている。マニュアルは整備されている。相談は4件の事例があり手順に沿って対応されている。家族会は整備されていない。	アンケートからは家族にスプリングラ - の設置の取り組みを知らせてほしい等の家族の要望が出されており家族の要望を反映させる取組を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の相談窓口になっており、随時意見や提案を聞く体制があります。	職員会議を毎月開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、毎朝のミーティングで個別の対応をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のスキルアップを進めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はサービスの質の向上の為に取り組んでいます。		

さわやか川中島(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者御本人との関係作りに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との関係作りに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野を持ちながら、見極めが行え、支援出来る様に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線で行動を行う様に心掛け、日常生活を共に過ごす仲間としての関係を築いています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者と御家族との絆を大切に、共に支え合う関係を築いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や、知人の方、懐かしい場所との関係が途切れてしまわない様、支援に努めています。	家族や近所の方等との面会には制限を設けないで対応している。キリスト教の信者には行事に協力している。歯医者は馴染みの関係を継続するよう努力している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆様が支え合いながら、共に楽しく暮らして頂ける様、支援に努めています。		

さわやか川中島(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、御家族の相談に応じ、フォローに努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者御自身の意向を尊重しながら、それぞれの希望が把握出来る様、努めています。	利用者情報書、面接記録により本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴やバックグラウンドの把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアシートを利用するなどして、利用者様個別に、現状の把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者御自身や、御家族の意向を元に、関係各位と話し合いをしながら、介護計画を作成しています。	生活介護計画書は担当者が利用者の家族の意向や看護師の意見を聴き作成している。モニタリングは全スタッフが話し合いで行っている。職員会議で困難事例を検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個々の記録は、個別記録を中心に記載しています。容態に応じ、別個の記録用紙を作成し、活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ本意の一方向的なサービス提供にならない様に、臨機応変に柔軟な対応を行える様、取り組んでいます。		

さわやか川中島(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の地域資源の把握に努め、豊かな暮らしを楽しめる様、支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、御家族や本人の希望を大切に、かかりつけ医を決めて、適切な受診が行えるように支援しています。	かかりつけ医は従前のかかりつけ医を尊重している。歯医者については本人の希望に応じて対応している。個別に緊急時の対応について覚書を交わしている。看取りについてもかかりつけ医と連携している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職間で相談しながら、適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、早期に病院側と連絡を取り合う様にしています。医療機関との関係保持に努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態が重度化したり、終末期ケアが必要となった場合は、早急に御家族や関連機関と話し合いの場を持ち、支援出来るように取り組んでいます。	終末期については「重度化した場合における対応に係る指針」を作成している。個別の利用者についてはこれから導入することを予定している。	終末期の方針が作成され個別の支援の共有を取り組もうとしているので確実な実施を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやフローチャートを作成し、全職員が急変時や緊急時に対応出来る様に努めています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、避難誘導訓練や防災に関する知識を身に付けています。地域への協力要請の依頼もしてあります。	非常災害時について火災訓練を実施している。非常災害時の対応手順や役割分担を整備している。	夜間想定や避難口からの車椅子の避難訓練等引き続きさまざまなリスクを想定され実施されることを希望します。

さわやか川中島(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、それぞれに応じた声掛けや対応を行っています。	認知症ケアに関するマニュアルやプライバシーの保護に取り組みに関するマニュアルが誠意されている。お風呂のカ-テンを二重にするなど配慮した対応を心がけている。	プライバシーの保護に関する具体的な取り組みの研修を計画しているので確実な実施を希望します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ご本人の希望を感じ取る事に努め、自己決定を行えるように働きかけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の意向や都合ではなく、利用者ご自身の生活ペースや希望に添う支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	画一的でなく、一人一人に応じた身だしなみや身づくりが出来るように支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に持っている能力を生かしながら、職員と一緒に準備や片付けを行っています。食事は同じ場所で一緒に食べています。	食事は家庭的な雰囲気を楽しめる工夫をしている。職員と準備や後片付けをしている。家族からは食事に対する期待は高い。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や能力に応じて、必要な栄養や水分が摂取していただけるよう支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの能力や状態に応じて、適切な口腔ケアを毎食後行っています。		

さわやか川中島(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を行う様に支援しています。個々のカンファレンスによる排泄補助具の検討を行っています。	おむつを使用している利用者はいない。トイレでの排泄の自立を支援している。トイレは広く清潔感がある。紙パンツ、尿とりパットは検討し使用している。排泄チェック表により習慣を活かした対応をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの症状や、個々の状態に応じて、水分摂取や運動を行うなどの便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じて、希望する時間に入浴していただける様に支援しています。	入浴は午前中自由に楽しめるよう支援している。午後也希望に応じて入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の明るさ、入眠時間など、利用者個々の希望に添い、安眠出来る様に支援しています。休息場所として、ソファや畳も用意してあります。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイリングし、情報の共有に努めています。看護師を中心に、適切な内服支援や状態変化の確認を行う様努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ピアノの演奏、歌、縫物、読み物、塗り絵など、利用者それぞれの嗜好に応じて、楽しみ事や気分転換が行える様に支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方には、外出をして頂ける支援体制があります。御家族や地域にも協力していただき、少し離れた場所への外出もして頂けるよう、支援に努めています。	散歩で近所や駅まで外出するよう支援している。また畑での作業や草刈りを行っている。花見や近所の買い物に出かけるよう支援している。	

さわやか川中島(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者本人が現金を所持する事の大切さを理解しています。また、本人の希望に応じ、買い物が行えるよう、支援をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者御本人からの要望があれば、ご本人が電話を掛けられるように支援しています。また、手紙の取り次ぎも支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の飾り付けは落ち着いた風合いに統一しています。庭に咲く季節の花々や、雛人形や鯉のぼり、七夕飾りやクリスマスツリーなど、季節毎の飾り付けを行っています。	共用の空間は統一された色調、空調に配慮されている。トイレは清潔に管理されており臭いを感じさせない工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと椅子のスペースと、ソファのスペースを分けています。その他にも座れる場所を設け、気分や状況に応じた居場所がある様に工夫しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋内は、利用者のお好きな様に家具などを配置しています。御家族にも相談し、使い慣れた家具や思い出の品などを持ち込み、本人の居心地が良い様に工夫をしています。	部屋は夫婦で生活できたり、部屋で洗面ができるよう配慮されている。個人の仏壇やタンスなどの馴染みの品が持ち込みでき居心地よい生活ができるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、安全な環境になっています。手すりの設置や個室内のカウンターなど、出来るだけ自立して生活していただける様な工夫も施してあります。		